

2008年6月18日

報道各位

鹿島石油株式会社
鹿島製油所

第2パラキシレン製造装置火災事故の原因と再発防止策について

弊所（所長：取締役副社長執行役員 古山富夫）では、本年4月20日に発生した「第2パラキシレン製造装置 ポンプPU-752A火災事故」につきまして、所長を委員長とする「事故調査委員会」を設置し、関係当局の指導を仰ぎながら、これまで原因究明および再発防止策について検討してまいりました。今般、その結果がまとまりましたので下記のとおりお知らせいたします。

地域の皆さまをはじめ、関係する多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしましたことを、あらためてお詫び申し上げます。今後は、再発防止策を徹底し、製油所の安全・安定操業に全力を傾注してまいります。

なお、事故発生以降、鹿島南部地区消防事務組合消防本部より消防法に基づく使用停止命令を受け、当該装置を含む関連装置を停止しておりましたが、本日、使用停止命令が解除されました。今後、順次運転を再開してまいります。

記

1. 事故の概要

- (1) 発生日時：2008年4月20日（日）16時5分頃
- (2) 発生場所：第2パラキシレン製造装置 ポンプPU-752A
- (3) 被害状況：ポンプおよび周辺の配管、電気・計装設備等の損傷。人的被害はなし。

2. 事故原因

- (1) 第2パラキシレン製造装置のポンプPU-752Aで激しい振動が生じ、ポンプに付属している圧力計ノズル等を損傷したため、プロセス流体が漏洩し火災となった。
- (2) ポンプが振動した原因は、急激な温度変化によってポンプに歪みが生じ、ポンプ内のベアリング部が損傷したことによると推定している。
- (3) 着火源は、ポンプの高温部または摩擦衝撃火花との接触と推定している。

3. 再発防止策

- (1) 流体の温度とポンプの温度差が管理範囲内であることを確認したうえでポンプを起動するよう操作手順に加えた。
- (2) 流体の温度を把握するために、ポンプの吸引ラインに温度計を設置した。
- (3) 発災したポンプと同型式のポンプについても同様の改造等を行った。

以上

お問合せ先

鹿島製油所総務課【宮崎】

TEL：0299(97)3111